

# Society 5.0の実現

～SDGsが達成された社会を目指して～

2017年9月5日

山西 健一郎

日本経済団体連合会 副会長／未来産業・技術委員長  
(三菱電機会長)

I . Society 5.0

II . 実現に向けた行動計画

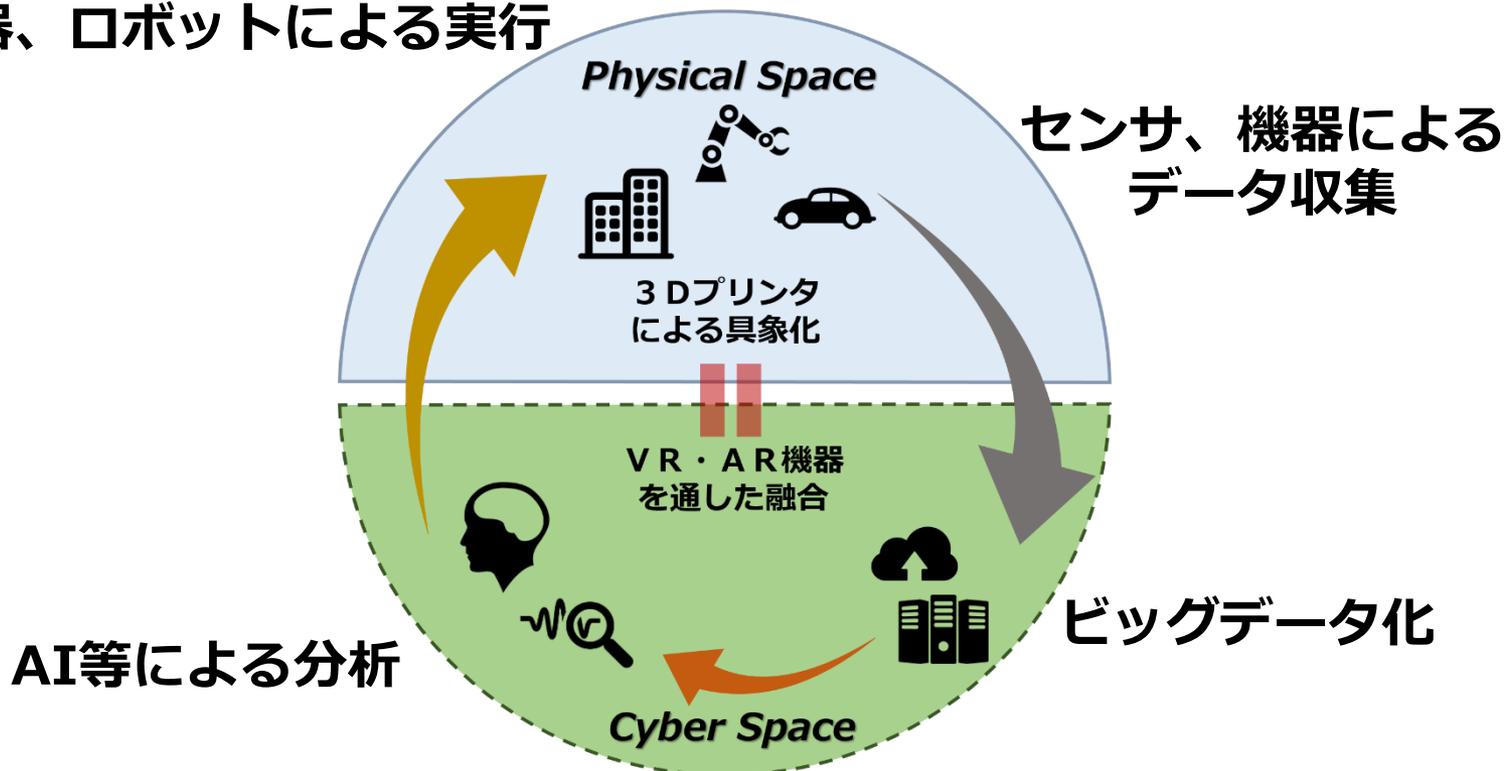
III . 必要な施策

IV . おわりに

I . Society5.0

- ICTの急速な進化を背景とした、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等の活用により、産業ひいては我々の生活を大きく変えると言われている
- サイバー空間と現実空間の融合を意味するサイバー・フィジカルシステムとも称される

## 機器、ロボットによる実行



※ CPS : サイバー・フィジカルシステム

※ VR (Virtual Reality) : 仮想現実  
AR (Augmented Reality) : 拡張現実

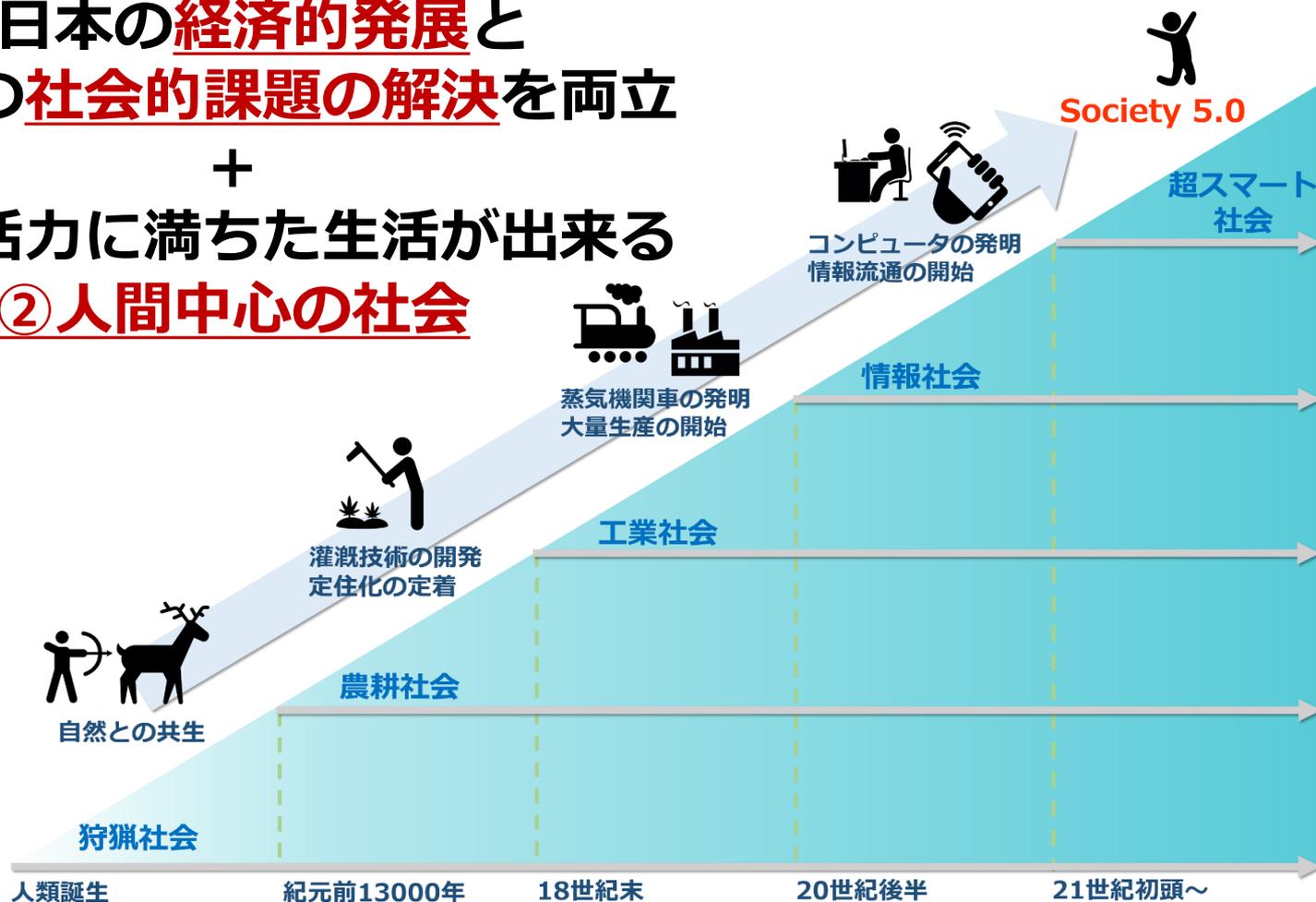
- 日本発のコンセプト。日本の科学技術イノベーション政策を定める「第5期科学技術基本計画」で打ち出される。
- 各国のコンセプトよりも広いスコープを持つことが特徴。

## ①日本の経済的发展と 国内外の社会的課題の解決を両立

+

## 快適で活力に満ちた生活が出来る

## ②人間中心の社会



個別最適化にとどまらず、社会全体の最適化を実現  
様々な制約からも解放され、社会課題の解決や社会や国民の豊かさも視野



## Society 4.0

コンピュータの発明  
情報流通の開始

20世紀後半

情報社会

ICT活用による個別最適化

天然資源の効率的活用

時空間制約など、  
様々な制約に依存した世界

個別課題の解決への模索  
個別産業の効率化



## Society 5.0

IoT、人工知能の活用  
バイオテクノロジーの進化

21世紀初頭～

超スマート社会

サイバー空間と現実空間の融合による  
社会全体の最適化（全体最適化）

新たな資源（データ）の活用

様々な制約から解放された世界

複雑化する社会課題の解決  
社会・国民の豊かさの実現

## Society 4.0の課題

## Society 5.0の世界

人口減少  
産業競争力の低下

人口減をものともしないスマートな社会

一人当たりGDP倍増

人口制約からの解放

超高齢化  
女性の活躍

高齢者や女性等、あらゆる個人が活躍できる社会

個人の能力発揮最大化

年齢・性別からの解放

災害・テロ  
インフラ老朽化

サイバー・フィジカルいずれも安全・安心な社会

犯罪・災害・サイバー攻撃被害ゼロ

不安からの解放

地方衰退  
都市集中

都市と地方がつながり、あらゆる場所で快適に暮らせる社会

都市と地方のQoL格差ゼロ

空間制約からの解放

環境問題  
資源・水不足

環境と経済が両立する持続可能な社会

資源・エネルギー利用の無駄ゼロ

環境・エネルギー制約の克服



## Ⅱ．実現に向けた行動計画

新たな成長戦略としてSociety 5.0を実現するための  
基盤となる領域を「Society 5.0実現官民プロジェクト」として実行

基盤となる領域を  
官民プロジェクトとして推進

領域選定のための  
「5つの視点」

複雑化する社会課題の解決と  
その先の未来創造を見据える

デジタル化を通じた  
産業競争力強化と国民生活向上

民間のみでは実現せず、  
官民、企業間の「協調」が必要

研究開発にとどまらず  
社会実装までを視野

新しい社会の基盤となる

都 市  
地 方

モノ・コト・サービス

インフラ

サイバー空間

実現を目指す  
Society 5.0の世界

人口減をものとし  
ない  
スマートな社会

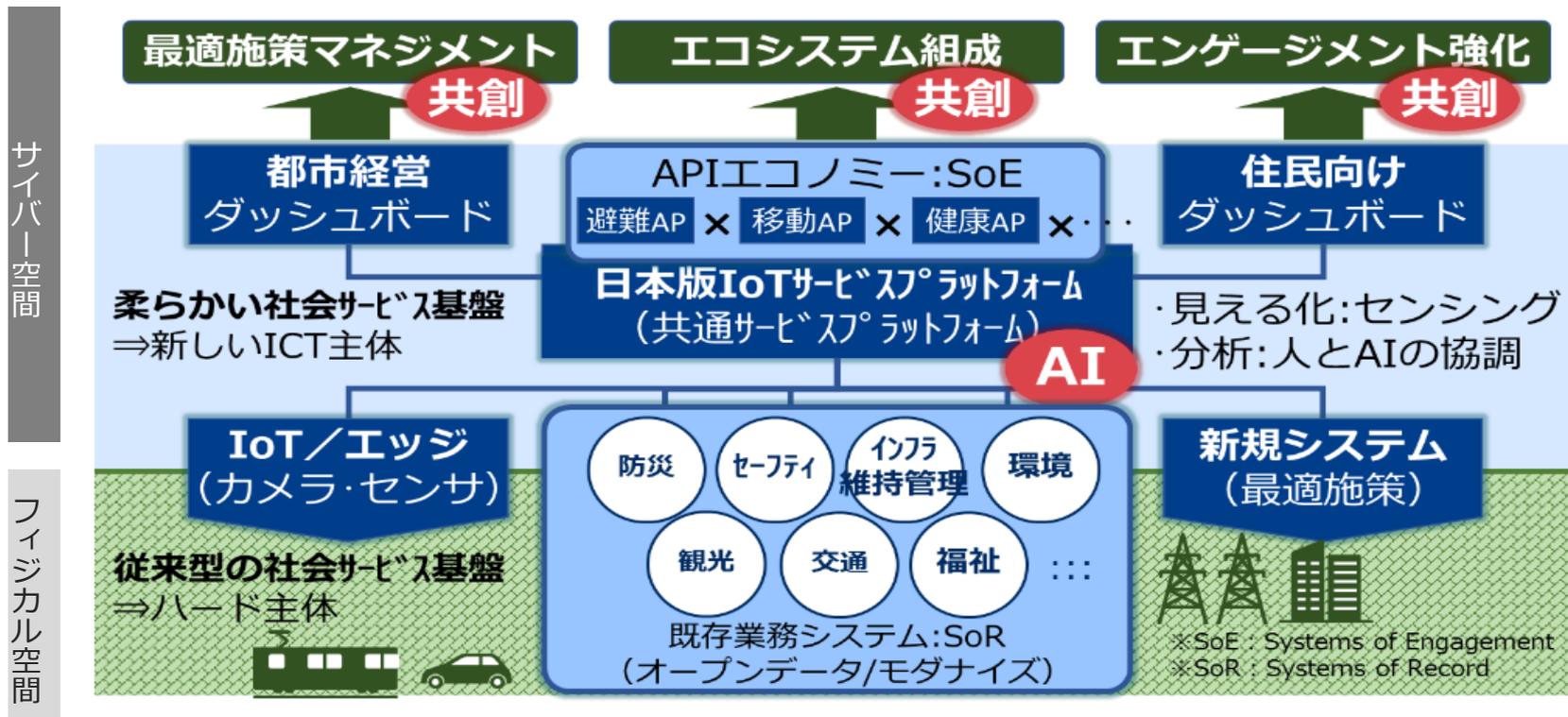
高齢者や女性等、  
あらゆる個人が活躍できる社会

サイバー・フィジカル  
いずれも安全・安心な社会

都市と地方が  
つながり  
あらゆる場所で快適に暮らせる社会

環境と経済が  
両立する  
持続可能な社会

都市活動全体をデジタル上にリアルタイムで再現  
人やモノの流れをリアルタイムに捉えて最適化



- 大規模災害時のサポート
- 交通渋滞の軽減

8 働きがいの  
経済成長も

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

11 住み続けられる  
まちづくりを

13 気候変動に  
具体的な対策を

原風景が残るかたちで人と自然が共生する地方、  
生き生きとした豊かな地方を実現する社会基盤づくりを先導。  
「豊かな日本の地方」を再構築。

- IoT車両情報
- 創エネルギー情報
- サイバー空間情報



□ 時空間制約からの解放

□ 人と自然との共生

3 すべての人に  
健康と福祉を



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



8 働きがいも  
経済成長も

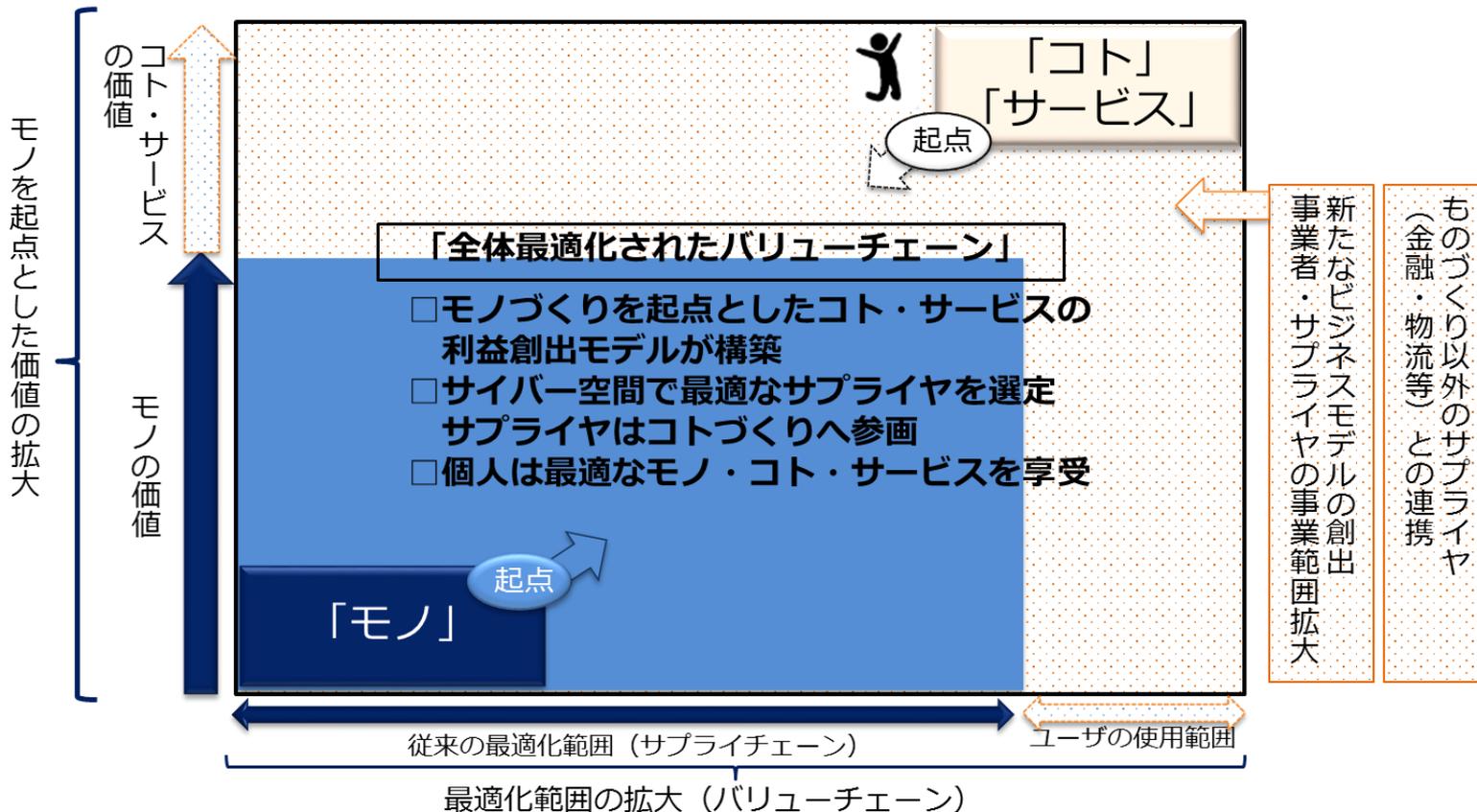


11 住み続けられる  
まちづくりを



モノ・コト・サービスの創出力を高め、産業競争力強化や生活の質向上を実現

「モノ」起点、「コト」「サービス」起点双方向からの検討が重要



全体最適化された  
「モノ・コト・サービス」基盤の構築

8 働きがいも  
経済成長も

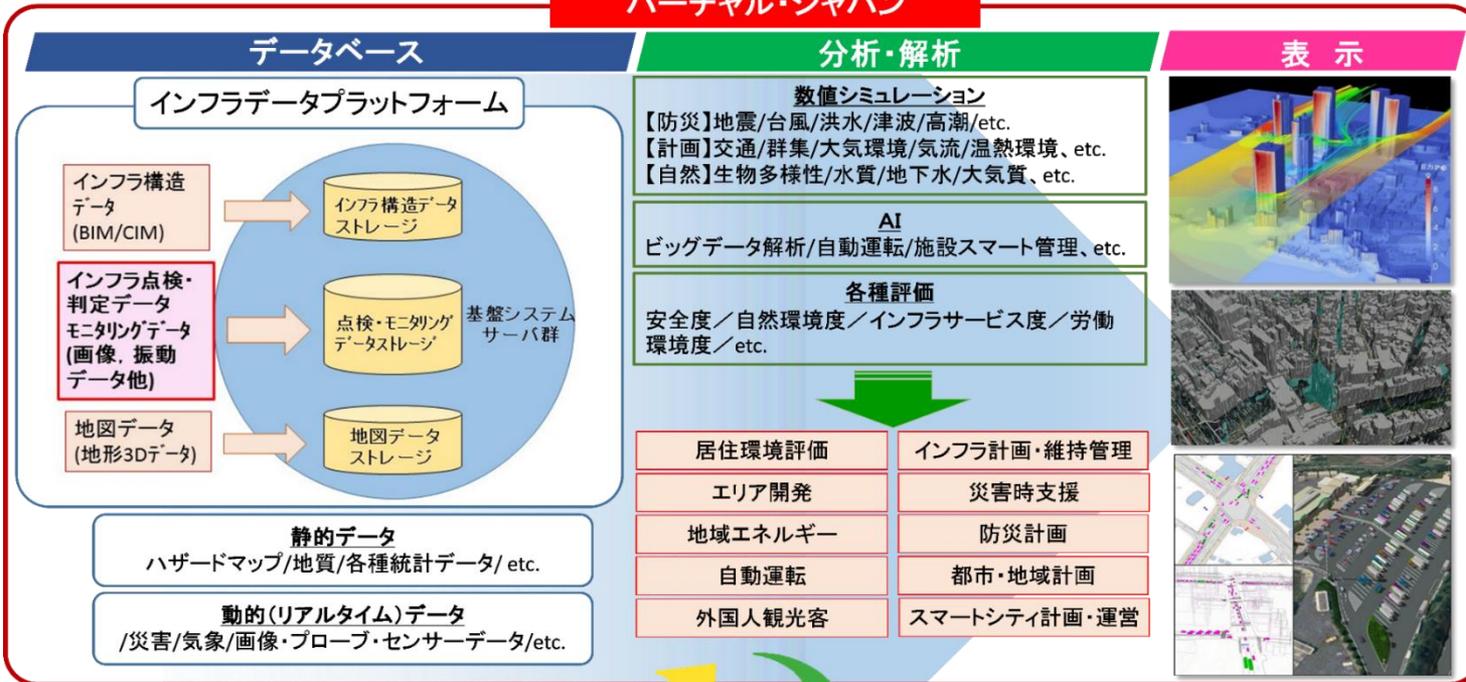


9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



インフラ技術とICTを融合した「インフラ・インフォマティクス」を進化させ、分散する多様なデータを駆使し、国民生活の快適性向上や災害に強い国土づくりに貢献

バーチャル・ジャパン



データ提供 利用



良質なインフラストックを形成

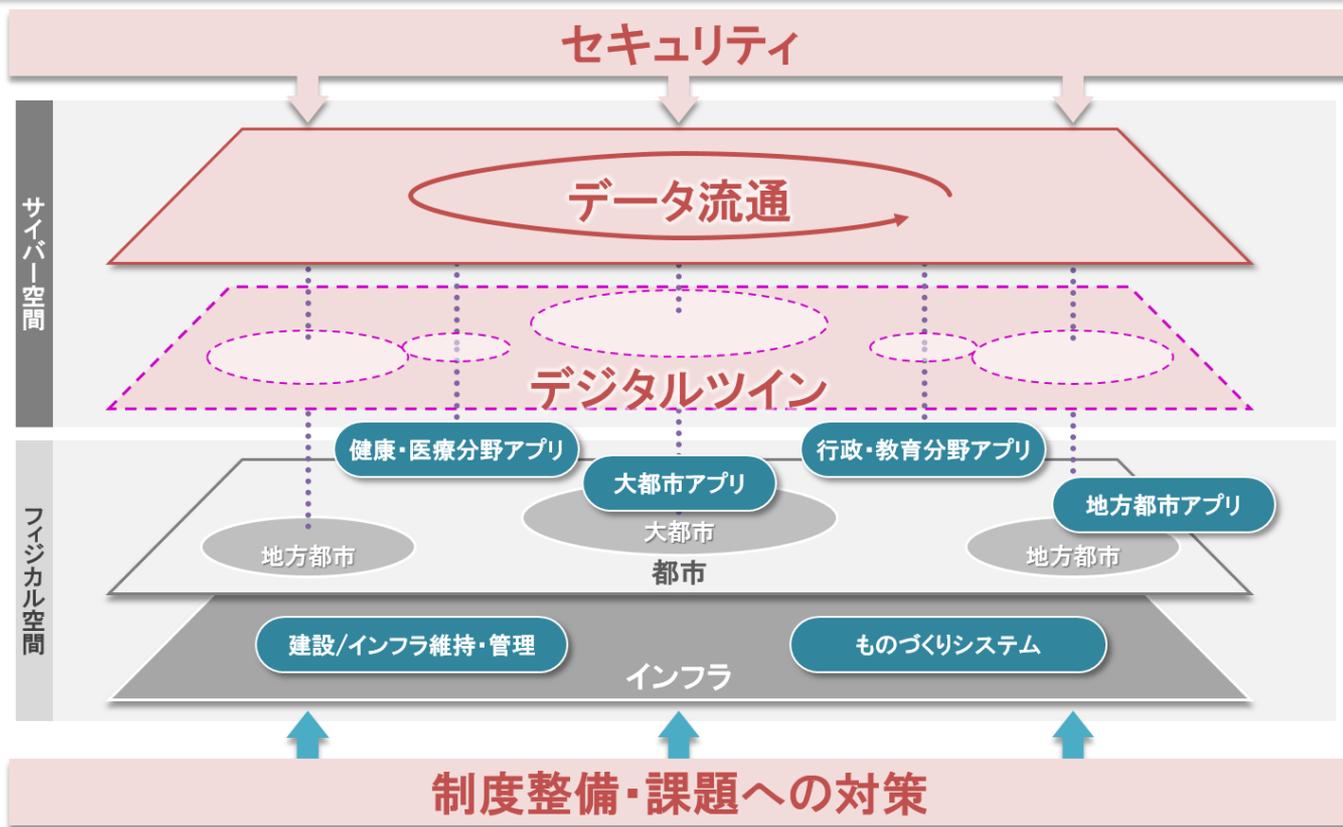
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

サイバー空間

フィジカル空間

システム全体が共生的に連携し、ヒト・モノの最適な流通・配置を可能とすることで、全体最適な社会を実現する仕組みを提供



□ データの安全・安心・効果的な活用推進

8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



## Ⅲ. 必要な施策

Society 5.0実現に向けて、省庁の壁、法制度の壁、技術の壁、人材の壁、社会受容の壁、さらには産業界自身の壁の突破が必要



## 省庁の壁

- 未来投資会議と総合科学技術・イノベーション会議を Society 5.0実現に向けた司令塔とし各省と連動

## 法制度の壁

- 「官民データ活用推進基本法」の下、社会課題の解決や国際競争力の強化に向けた官民データを活用、電子政府を構築

## 技術の壁

- 政府研究開発投資の対GDP比1%の確保
- 社会実装までを見通したSIP・ImPACT・FIRST型のプロジェクトに対し新たに2500億円を投資し実行

## 人材の壁

- 長期的な人材戦略の下、Society 5.0実現に資する人材を国内外で確保。大型共同研究等を通じた人材育成の実施

## 社会受容の壁

- ELSIの検討やテストベッドによる実証実験等によって Society 5.0に係る多様な主体でコンセンサスを形成
- Society 5.0のメリットについての理解獲得を促進 世界各地の文化や地域性にあわせた世界展開の実施

Society 5.0の実現に向けた産業界の役割は大きい  
企業、ひいては産業界の国際競争力を高めながら、Society 5.0を実現

## 業種・業界を超えた企業間の協調の実施

- 多様な経営資源の投資を通じた協調を推進
- データや研究開発における協調領域を明確化し拡大

## 大学・研究開発法人との共創

- 2025年度まで大学や研究開発法人との共同研究等の投資を3倍へ拡大
- 官民連携型の投資スキームに関し、政府等と連携し検討を開始

## ベンチャー企業との協調・共創

- ベンチャー企業への投資等の連携、調達・人材交流を拡大
- 大学の技術シーズを基にしたベンチャー企業の創出・育成を検討\*

## IV. おわりに



# Keidanren

Policy & Action